

令和7年度第2回 埼玉県スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和8年3月26日（木）14:00～16:00

2 場 所 埼玉教育会館303会議室（対面）及びオンライン（Teams）

3 出 席

(1) 出席委員（14名）

東山委員、工藤委員、佐藤委員、白石委員、高橋委員、太田委員、今村委員、谷ヶ崎委員、新井委員、石川委員、田中委員、小池委員、岩本委員、廣田委員

(2) 欠席委員（4名）

山田委員、松井委員、田川委員、安達委員

(3) 事務局

スポーツ振興課

4 報告事項

(1) 令和8年度の主な事業について

(2) 次期埼玉県スポーツ推進計画の策定スケジュールについて

(3) 東京2025デフリンピック大会・ミラノオリンピック2026大会・ミラノパラリンピック2026大会結果について

5 内 容

(1) 開会（傍聴者なし）

(2) 県民スポーツ文化局長挨拶

(3) 委員紹介

(4) 署名委員の指名（佐藤委員と太田委員を署名委員に指名）

(5) 報告事項

ア. 令和8年度の主な事業について

【事務局 資料1に基づき説明】

イ. 次期埼玉県スポーツ推進計画の策定スケジュールについて

【事務局 資料2に基づき説明】

ウ. 東京2025デフリンピック大会・ミラノオリンピック2026大会・ミラノパラリンピック2026大会結果について

【事務局 資料3に基づき説明】

(6) 質疑応答

資料1について

○ 高橋委員

皆さんご存じかと思うが、昨年１１月に東京２０２５デフリンピック大会が開催された。来年２月には、オーストリアで冬季デフリンピックが開催される。埼玉県からの出場選手が分かれば、それに対して強化指導をしていきたいと思うが、そのための予算についてはどうなっているのか。例えば、フットサルについては埼玉県に何人か選手がいると思う。強化のための予算状況についてお伺いしたい。

○ スポーツ振興課副課長

冬季デフリンピックに向けた予算については、直接ではないが、資料６ページのアスリートの競技力向上支援。この枠組みのプラチナアスリートがそれにあたる。デフリンピックの候補選手についても、同事業のプラチナアスリートとして認定させていただいた場合には、スポーツ科学を活用した個別サポートを受けていただく。

あわせて、基礎強化という枠組みで、聴覚障害者協会様には一定の強化費をお渡しさせていただく予定である。

○ 高橋委員

ろう学校を卒業した生徒に限らず、普通の学校、一般の学校を卒業した方々の中にも、非常に技術を持った選手がいる。ろう学校よりも、地域の学校に通っている方のほうが多いのではないかと思います。その辺りにもご配慮いただきたい。

○ スポーツ振興課副課長

障害者アスリートの発掘育成については、プラチナエースという枠組みでさせていただいている。いわゆるパラリンピック、デフリンピック競技を対象にしているが、選手になる可能性のある方を発掘していただくために、これは広く競技団体等に対して、あるいは小学校、中学校、高等学校、県立特別支援学校、こういったところにお声掛けをさせていただいて、体験会・測定会を実施している。選手の発掘については、かなり広く募集をかけさせていただいている。

○ 工藤副会長

これまで埼玉県の競技スポーツは、中学校や高等学校の運動部活動が基盤となり支えられてきた。また、県民全体のスポーツへの意識醸成にも大きく関わってきたと思うが、ご存じの通り、令和８年度から中学校における部活動の地域連携が大きく動き始める。

こちらの取り組みの中にも、地域移行に向けた支援ということが書いてあるが、この地域部活動の地域連携がスムーズにいい方向へ向かうかどうか、埼玉県のスポーツ振興、埼玉県スポーツ推進計画がより良い方向へ向かえるかどうかの鍵を握っていると思う。

地域移行への具体的な支援について、どのように考えているかお聞かせ願いたい。

○ スポーツ振興課副課長

部活動の地域展開については、今年度、教育局と知事部局で部局を越えた連携をより図るための庁内会議を設置した。その中で、スポーツ振興課としては、スポーツ分野について、地域において新たに受け皿となるような団体の掘り起こしや育成に注力をして取り組んできた。これらは、令和８年度以降もしっかりと取り組んでいく。

具体的な取組としては、今年度については２０団体に国庫補助事業で実証事業という形で実施させていただいた。これまで国庫補助で実施

してきた当該事業であるが、来年度からは国の補助事業自体が無くなった。国庫補助事業としては、教育局で取り扱っている国3分の1、県3分の1、市町村3分の1をそれぞれ負担する枠組みで、各市町村が主体となって実施する取組に集約された。

来年度については、子どもたちに聞くと、より専門的な知識のある方、技術のある方に教えてもらいたい、専門性の高い方に教えてもらいたいという声があることから、プロやトップチームが指導者となるような取組ができないかというのが一つ。それから、これまでなかなか進められずにいたが、障害のある方を受け入れることができるような団体の育成も行っていきたい。特別支援学校の子どもたちが対象となるような団体の掘り起こしも行っていきたいと考え、この3つの観点で3団体の実証事業を県の独自予算で引き続き行っていく。

スポーツ振興課としては、いかに地域の中に受け皿となりうるような団体を掘り起こしていくか、そしてその団体を持続可能な活動ができるようにしていくか、そのための支援に力を入れてまいりたいと考えている。

○ 東山委員

eスポーツについては県単独の事業もあり、イベント等もあって、非常に皆さん熱心に進めていただいていることはよく分かる。しかし、福祉の分野などに大きな可能性を感じる新しいスポーツであるので、やはり、多くの方に参加いただいて、地域の大きな力となっていただきたい。

資料の主な取組の中に「市町村・民間企業向けeスポーツ活用セミナーの開催」とあるが、裾野を広げていくために、県が旗振り役となって市町村や企業に取り組んでもらうには大切な部分であると思う。市町村や民間企業の反応はどのようなものか。

○ 事務局（スポーツ振興課主幹）

今年度実施したセミナーに参加いただいた県内自治体及び県内企業の方にアンケートを取ったところ、大変参考になった、興味を持った、eスポーツの持つ可能性を感じたと、興味が湧いたという回答をいただいている。実際セミナーを開催した印象としては、かなり好感触があった。引き続き、先進的な取組事例等を紹介するなど、拡大に努めていきたいと考えている。

○ 東山委員

民間企業については、ビジネスチャンスをしっかり捉えられるよう、スピーディーな動きも必要だと思う。また、市町村については、やはり、実際に取り組んだ段階になってから課題もいろいろ出てくると思う。福祉の分野についても、先ほど申したとおり、非常に大きな可能性があると思うので、市町村に寄り添うかたちで検討し、しっかりと進めていただきたい。

○ 県民スポーツ・文化局長

活用セミナーに関しては、募集より多くの申し込みがあったということからも、非常に関心が高かったと言える。

また、eスポーツのイベントについても、今年度4会場で同時開催したうち1会場については久喜市と合同で実施した。民間企業や市町村との連携については、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

○ 高橋委員

50m屋内水泳場について、この工事は令和8年度に始まって、年度末に完成ということか。開業予定はいつか。

○ スポーツ振興課長

工事は昨年度から始まっており、令和8年度末に完成する予定である。開業は、準備期間を経て、令和9年度の7月の予定となっている。

○ 新井委員

県内スポーツチームには本当に色々な競技がある。卓球やバスケ、野球もラグビーもあり、本当に沢山のプロスポーツチームがあるので、これらチームと連携した情報発信を行うとともに、一度スタジアムに足を運んでいただく、生で観ていただく、臨場感であるとか、迫力が本当に魅力であると思う。

資料にある通り、各チームそれぞれ来場者を増やすために取り組んでいて、我々もできる限り紹介はしているところではあるが、そのあたりでうまく連携していけると良いと日々感じている。

○ 白石委員

主な取組に「地域のパラスポーツ指導員等の育成」とあるが、どのような内容か。養成ではなく育成ということによいか。

○ 事務局（スポーツ振興課主幹）

ここで想定しているのは、初級パラスポーツ指導員の養成事業であるが、トータルで育成という表現をさせていただいた。

○ 廣田委員

全体を通して、良い取組が行われていると感じた。県民のための予算が良い方向に使われていて、誇らしいと感じている。

一方で、最後の施策目標4について、女性のスポーツやパラスポーツにかかる予算は、どれぐらいの割合を占めていて、どのように進めていくのかお聞きしたい。

○ 事務局（スポーツ振興課主査）

本資料に掲載する予算額については、現在県議会において審議中の予算案をお示ししているところである。

また、再掲等もあり、一つ一つの取組みについて全体の何割であるということは、別途計算をしないとお示しすることができないため、この場でお示しすることは難しい。

○ スポーツ振興課長

共生社会づくりに向けた取組の予算が全体に占める割合については、後日計算の上、委員の方にご回答差し上げる。

○ 廣田委員

その際は、施設設備事業の金額を除いた割合で算出していただきたい。

○ 工藤副会長

イベントの開催、施設の整備や情報発信などについて説明をいただいたが、県の中の多くの団体がこれに関わっていると思う。

これらの団体の令和7年度までの活動成果の上に立って、この令和8年度の事業計画が立てられたのだと思うが、埼玉県スポーツ協会も、この県のスポーツ推進計画に沿って、その目標の実現を目指して活動運営を行っている。このことは、それぞれに関わる多くの団体も同じだと思うが、令和8年度については県の助成が非常に厳しくなっているというのも事実である。

今後、各団体の活動や運営が滞ることなく継続することで、県のスポーツ推進計画を実現発展できるよう、様々な角度からスポーツ振興課にはご支援をお願いしたいと期待している。

資料2について

○ 石川会長

引き続き、心して我々も進めていかなければならないことを改めて理解した。この通り進めていただきたい。

資料3について

○ 石川会長

県ゆかりの選手の活躍がについて報告があったが、大変すばらしい結果であった。選手ご本人の努力はもとより、支えていただいた組織や団体の皆さんのご努力も大きかったことと思う。また、県の事業が実を結びつつあることが見て取れるような結果でもあった。

○ 高橋委員

大変素晴らしい結果であり、非常に喜ばしいことである。これで終わりではなく、また4年後を目指して、これらの選手とともに頑張っていきたいと思っている。

県のチームに射撃の選手がいるが、この方は聞こえない方だが手話ができない。口でお話をされる方であって、この選手はどのようなお気持ちであったのかなど。射撃はすごく珍しいので、そんなことも気になっていた。素晴らしい成果があったと思うので、引き続きのご協力をお願いしたい。

○ 白石委員

村岡選手については、今も若いが、さらに若い時代から強化指定に入っていた。やはりこの活躍は、これらの支援の結果でもあると考える。こうした環境であれば、今後も強い選手が生まれてくると考えているので、引き続きのご支援をお願いしたい。

署名 石川 泰成

署名 佐藤 えみ子

署名 太田 あや子